

学習者の思考過程を生かす国語科での論理的思考力育成方法の開発

幸坂健太郎 (広島大学教育学研究科 特任助教)

■問題の所在

国語科教育でこれまで行われてきた論理的思考力育成指導は、学習者の認知を白紙の状態と捉え、そこに「型」である論理を書き込んでいくという指導者中心の前提を持つものであった。しかし、近年台頭してきた学習科学の立場に立つならば、学習者の学びのプロセスにこそ目を向ける、学習者中心の前提で指導を行っていく必要がある。

■研究の目的

本研究は、学習者の論理的思考の過程における思考・認知の課題を捉え、そこに介入していく国語科指導方法を開発し、その有効性を検証することを目的とする。

■方法

まず、国語科の領域のうち、説明的文章の読みを本研究の対象領域として焦点化した。これは、本研究がこの領域を、論理的思考力育成指導を行うべき最も重要な国語科領域として捉えることによる。また、研究全体の手法として、“デザインベース研究”(Collins et al., 2004; Barab, 2006)を用いた。デザインベース研究は、理論と実践の往還を繰り返しながら理論をより実践に適用できるものへと高めていく柔軟な研究アプローチである。本研究では、最初に仮説的な方法論を構築し、5つの実践(小学校実践3回、中学校実践2回)を通してその理論をブラッシュアップしていくことを目指した。

■結果・考察

まず、“認知カウンセリング”(市川編, 1993)という個別指導理論の知見をもとに、一斉指導場面において認知カウンセリングで起こりうるような個の思考過程に着目した学びが起こる指導方法論を構築した。具体的には、学習者間でお互いの論理的思考の過程への働きかけをさせることにより、一斉指導場面における思考過程を生かした指導の実現を目指した。

次に、構築した方法論をもとに、5つの実践を行った。それぞれの実践の概要は以下の通りである。

実践1: 小学6年生を対象とした、ペア学習でお互いの論理図にアドバイスさせ合う実践(指導者: 論者)

実践2: 小学6年生を対象とした、“発表会”で各班の論理図にアドバイスさせ合う実践(指導者: 論者)

実践3: 中学2年生を対象とした、ペア学習でお互いの論理図にアドバイスさせ合う実践(指導者: 論者)

実践4: 中学1年生を対象とした、筆者の背後の文脈を踏まえて班で筆者の論理を批評する実践(指導者: 論者)

実践5: 小学4年生を対象とした、全体討論でお互いの論理の読み取りにアドバイスさせ合う実践(指導者: 協力者)

各実践の成果・課題をもとに、例えば学習者間で思考過程に介入させ合う際、どのような発話を促進すればよいか等が考察された。

■結論・今後の展望

5つの実践によるブラッシュアップを経た方法論をまとめたのが右図である。右図が、学習者の思考過程を生かした国語科論理的思考力育成指導を行うための本研究の最終的な提言である。

今後は、デザインベース研究の手法にもとづき、さらに右図をブラッシュアップしていく。また、多様な校種・学年段階で指導を行い、学習者の思考過程を生かした国語科論理的思考力育成のためのカリキュラム開発も目指す。

